

# グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成

## 答えのない時代を生き抜く力を身につける

本校は、1897年、明治30年4月に、茨城県立尋常中学校下妻分校として創立され、本年で128年目を迎える、歴史と伝統を誇る学校です。この伝統は、歴代の先輩の方々からのたすきを受け継ぎ、しっかりと継承してきた証でもあります。

今、私たちをとりまく社会状況は、先行きが不透明で、物事の不確実性が高く、将来の予想が困難な状態に突入しました。予測困難なこの時代を生き抜くためには、情報収集能力、思考力、行動力のスキルは必須であり、さらにこれからは海外企業、グローバル人材と同じ土俵で仕事をしていかねばなりません。この先、皆さんがこのような時代を生き抜いていく為には、逆境に負けず、果敢に挑戦し、新たな価値を生み出す、起業家的リーダーシップ、アントレプレナーシップを持つことが大切です。これが「AI時代に必要な教養」を身に付ける事に繋がります。

よく誤解されるのですが、アントレプレナーシップは起業家をつくるということではありません。アントレプレナーの精神を養うということです。今の時代においては、全ての人に共通して必要なスキルです。逆境に負けずに立ち向かう力、豊かな教養、鋭い洞察力、そして人を巻き込める力、優れた人間性、物事の構想力など、起業家的な精神・思考を育てて頂きたいという事です。社会で活躍する為には、どのような立場であれ、このアントレプレナーシップが求められると考えています。大企業の社員、ベンチャー企業の創業者、ファミリービジネスの創業者、さらには公務員など組織の中で働く人にも求められています。私はそれを皆さんに伝え、これからの日本を背負う、次世代の人材育成に全力を注ぎたいと思います。今までの伝統を活かしつつ、新しい事を取り入れ、伝統校の更なる磨き上げが必要な時期だと感じています。それが、未来の「為桜学園」の発展に繋がると信じております。

「自ら考え、人とつながりながら、よりよい未来の創造に向かって挑戦していく力」を、文武不岐の精神のもと、本校での学校生活を通して身に付け、深めていってほしいと期待します。

茨城県立下妻第一高等学校・附属中学校  
校長 生井 秀一

Message

### 下妻一高アドミッション・ポリシー (入学者の受入れに関する方針)

- (1) 本学の学びに対する興味関心が旺盛で、深く探究しようとする強い意欲のある生徒
- (2) グローバル化する社会の様々な事象に関心があり、英語等の言語習得及び異文化理解に積極的に関わろうとする生徒
- (3) 自分の進路実現に向かい、挫折や失敗を恐れず、主体的に努力を継続することができる生徒
- (4) 学校行事、生徒会活動、部活動などにリーダーシップをもって積極的に取り組む意欲のある生徒

### 学校教育目標

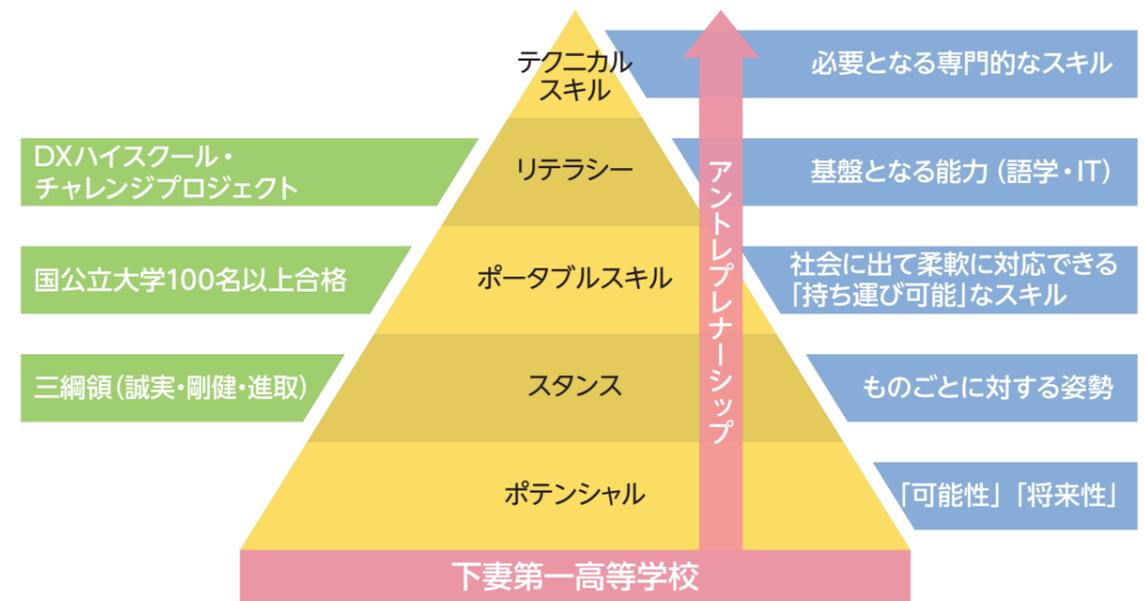
「文武不岐」実践のもと、知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成  
グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成

### 学校の特徴

様々なことに挑戦でき、自己の可能性を広げられる学校

## グローバルで活躍できる「アントレプレナーシップ」をもった生徒の育成

為桜学園の生徒は、磨けば光るダイヤモンドの原石



### 【為桜学園】



(上記マークは中村不折作)

「為桜学園」の名は学園の春を飾る桜花にちなみ、藤田東湖作「為桜園の春を飾る桜花にちなみ、藤田東湖作『天文祥正氣の歌に和す』の一節「発いては万葉の桜と為る」よりとられたもので、本校草創期の理念として明治34年に体育会を為桜会と命名して以来、脈々と本校に継承されてきました。本校の桜も、老木の数こそめっきり少なくなりましたが、爛漫、その清潔の品、花玉の格は古くから本校の象徴とするところであり、「為桜」は衆芳を抜かんとする生徒の心意気「為桜魂」を示すものです。

左のマークは、明治39年、長塚節の紹介で、洋画家・書家として知られる中村不折が作図したもので、現在も本校のシンボルマークとして広く使用されています。(「為桜」を囲んで「不二の嶽」「大瀛の水」「万葉の桜」が「百鍊の鉄」の刀の鏢の中に見事に配されています。)

